



大阪中河内ブロック 八尾支部  
(株)柳田製作所  
柳田 大介

同友会2008ビジョンから学び、条例にある基本理念を見直しました。その理念を具体的に施策に反映した1つに八尾シンポジウムがあります。1998年より毎年開催され、商業者、工業者、大学、市民一体となり学術的に学んできました。しかし具体的に学びをどのように実践していいのか？議論を深めれば深めるほど分からなくなる時期もありました。八尾市がにぎわいのある住みたい町、働きたくなる町にするには1社だけでは到底叶うものではなく行政や大学、商業者、工業者、農業者も巻き込む連携活動こそが重要であること、そこに同友会で学ぶ八尾支部会員が主体性をもって行動に移していかなければこの八尾から新たな産業が生まれないと気づきます。



今期の取り組み事例の1つは、八尾市の6次産業化をめざすため有志を募り特産物である枝豆を使ったビールを第40回八尾河内音頭まつりで販売することです。八尾の農家から枝豆を仕入れ、ビールの醸造は八尾市民である店主のデータールバレさんに依頼し何度も試飲会を重ねてきました。ほんのりと枝豆の香りも味わえる！いわばおつまみいらずの八尾の枝豆地ビールがもうまもなく完成です。

活動費は協賛金を募りお返しには八尾河内音頭祭りのTシャツに枝豆のデザインを施したプレミア感たっぷりの限定Tシャツとビール1杯無料券を準備中です。来年にはブランド化しふるさと納税の返礼品にしようと行政とも検討中です。

憲章や条例の具体的実践はこのように会員自らが楽しみワクワクするような活動でなければいけません。現在八尾支部会員が主体となって地域と関わり活動している取り組みこそが地域の自慢であるのかなと感じております。←自画自賛(笑)

八尾市中小企業地域経済振興基本条例制定は1999年と大変早い時期に結ばれているようで、八尾市における同友会地域密着活動が大変盛んであったことを物語ります。河内音頭の夕べに枝豆地ビールとは！素敵。たくさんのご参加お待ちしておりますとのこと。

(編集 西岡)